

会議議事録

会 議 名	第 3 回学校関係者評価委員会	
開 催 日 時	平成 29 年 7 月 8 日（土） 10 時 00 分～11 時 00 分	
会 場	彰栄保育福祉専門学校本館 会議室	
参 加 者	外 部 委 員	児島 康夫 川越キングス・ガーデン 理事 山本 慎介 わかたけかなえ保育園 園長 鈴木 一伸 ニツ橋あいりん幼稚園 副園長 齋藤 洋子 彰栄学園 評議員・卒業生 阿川 裕孝 小・中学校校長 OB
	内 部 委 員	帆苺 猛、加藤 啓、芦野 裕一、根本 亮
配 布 資 料	・ 2016 年度 退学者・在籍者数等一覧 ・ 学生カウンセラー相談予定表	
会 議 録	<p>※2 月 25 日（土）の第 3 回は、複数の委員の欠席（体調不良）により中止となった為、日程を変更して実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 理事長挨拶 2. 委員長のあいさつ 3. 重点目標について（学生数減少対策） 4. 彰栄学園 120 周年について 5. 委員からの質疑、評価 <p>※議事録参照</p>	

「2016年度重点目標について（学生数減少対策）」

議
題

- ・ 入学者に対する各入試並びに各入試に対する退学者の比率を説明した。今年度は、各入試による突出した傾向は見られなかったが、2年次での退学が増加している。担任並びに学生カウンセラーがそれぞれ学生対応することで、退学を考え直して2年に進級したが、その後に退学してしまう傾向が見られた。
また、2016年度入学者より保育・介護コースの学生を、1クラスにまとめずに、氏名順でクラス編成をおこなった結果、クラス内での連鎖的な退学はなかった。（根本）
- ・ 2016年度の5月から、カウンセラーを週に2.3日配置し、学生の教員以外のサポートを強化して、退学防止を図っている。結果として、2年次で退学という学生も多いが、1年間在学したことで、再入学の方法を確認してから退学した学生もいる。（帆苺）
- ・ 学生のカウンセラーの利用状況は、学生数で見ると比較的高めの割合となっている。学内行事及び掲示などで、カウンセラーの存在をわかりやすくしたことで、内容によらず、比較的オープンに利用している。担任を主体としつつもカウンセラー並びに家族、友人などと相談できる存在が増えたことで、精神的なサポート及びチャンスを持てるようになった。今後は、2年次の退学者数が減少するように協力して対応したい。（加藤）
- ・ 学生も、幼稚園などに遊びに来てもらうことで、行事などへの関係性もでき、学校とは別に学習意欲の刺激になる。（鈴木）
→高校の保育体験と専門学校の授業の差に戸惑う学生が多いので、授業とは別に子どもたちと関わる機会は大変だと感じている。（加藤）
- ・ 専任教員とカウンセラー、学生の現状について（児島）
→教員は授業もあり、個々の学生と長い時間をとって話をすることができないので、カウンセラーとは比較的余裕を持って話をすることができる雰囲気になっている。（加藤）
- ・ 自分が学生の頃は、午前中に実習をおこない、午後から授業となる時間割になっていた。また、保育現場で経験がある人が入学していたので、現場を体験した（ている）ことで、資格を取る意識が高くなり、退学者が少なかった。今のカリキュラムで実習と時間割の構成が大変だと感じているが、カウンセラーの導入は、良い対応になっている。（斉藤）

<課題事項>

- ・ 教員及びカウンセラーなどの協力で、1年次での退学は減少したが、2年次での退学者の対応について引き続き検討する。

その他

彰栄学園 120 周年について

- ・ 彰栄学園 120 周年誌を作成し、11/8（火）の創立記念日に渡すことができた。また、前々回の委員の方々の意見及び関係者からの御協力をいただき、校内写真を取り入れ、今までにない創設当初の情報も原稿にすることができた。インターネットを活用した公開はできていないが、彰栄保育福祉専門学校並びに彰栄リハビリテーション専門学校及び彰栄幼稚園などの学園関係者、学園祭での同窓会行事で多くの卒業生などにも記念誌を渡すことができた。ご協力をいただいた方々に感謝し、120 年の伝統と建学の精神を受け継ぎ、125 周年、130 周年を目指したい。（帆莉）